

経済産業省における主ながん対策関連予算について

資料 1 - 4

()内は平成19年度予算額

がん対策関連予算平成20年度予算総額: 106.5億円 (120.0 億円)

1. 医療機器関連 20.2億円 (29.6 億円)

○インテリジェント手術機器研究開発プロジェクト

6.0億円 (7.0億円)

手術中にがん細胞等の病巣部の位置や形状を正確に把握し最小限の切除で治療できる手術システム

○分子イメージング機器研究開発プロジェクト

9.6億円 (12.0億円)

がん等の疾患に特異的な生体分子の動き・特徴を捉え、超早期に発見する診断機器

○次世代DDS型悪性腫瘍治療システムの研究開発事業

4.6億円 (10.6億円)

がん細胞に抗がん剤を集積させ、活性化し、がん細胞のみを選択的に消滅させるシステム

2. イノベーションの創出・加速 26.0億円 (19.0億円)

○基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発

26.0億 (19.0億円)

先進医療技術を創出するために、医療現場のニーズに基づき、多様なバイオ技術など基礎・基盤研究の成果を融合し、円滑に実用化につなげる技術開発(橋渡し研究)を推進。文部科学省が実施する橋渡し研究の拠点整備や厚生労働省が実施する臨床研究事業と連携。

(重点施策推進要望)

3. 創薬に向けた支援技術 60.3億円 (71.4億円)

○ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発

36.9億円 (43.6億円)

がん等の病気の仕組みを遺伝子レベルで詳細に解析する基盤技術を開発し、疾患の仕組みの解明や治療薬の開発に貢献

○糖鎖機能活用技術開発

10.0億円 (11.9億円)

がん等の疾患の目印となりうる糖鎖の機能を解明し、疾患の仕組みの解明や早期診断に貢献

○新機能抗体創製技術開発

10.0億円 (11.9億円)

がん等の疾患に対する治療薬や診断薬等に応用できる抗体を効率的に作成する技術の開発

○個別化医療の実現のための技術融合バイオ診断技術開発

3.4億円 (4.0億円)

個人の遺伝的特性に基づく抗がん剤の選択や、がんの早期発見を可能にする画期的な診断技術の開発